

防犯対策



※ ひったくり

- カバンなどは、車道と反対側の腕に抱える。
- 自転車のカゴにカバンなどを入れる場合は、防犯ネットを使用する。
- 人通りの少ない道や暗い道の通行を避ける。
- 防犯ブザーなどを携帯する。
- 歩行中は携帯電話を使わない。(注意散漫になる。)

※ 自転車盗難

- ちょっと離れる場合でも鍵をかける。
- 明るく監視の行き届いた駐輪場を利用し、歩道などに駐輪しない。
- 自転車防犯登録をしておく。

※ 車上ねらい・部品盗

- たとえ短時間の駐車でも、貴重品のあるなしに関係なくカバンなどは車内に置かない。(犯人は待ち伏せしています。)
- 駐車する時は、明るく監視の行き届いた駐車場などを利用し、路上駐車などの違法駐車はしない。
- 盗難防止機器などを利用する。

※ 空き巣・忍び込み

- 出入口の鍵は、防犯性能の高い錠や補助錠を利用する。
- 侵入する足場となりそうな物は取り除いておき、高い窓でも施錠はしっかりする。
- センサーライトなどを取りつける。
- 庭木などによる死角を作らない。
- 普段から隣近所の人とコミュニケーションを図り、長期間留守にする場合でも異変があれば連絡しあえるようにする。また、新聞や郵便物などをためないようにする。



下校中の子どもたちを見守る青パト車

犯罪から身を守るために

年の暮れが近づいたこの時期、忙しさのあまりついつい防犯意識が低くなりがちです。

そんな中「自分の身は自分で守る」ことを第一に考えて市民の皆さんが取り組まれている活動を紹介しします。

市内の犯罪発生状況と防犯活動は

滋賀県の犯罪発生件数は、平成14年に過去最高の32,183件を記録して以来減り続け、平成22年は、15,501件と大幅に減少してきました。

しかしながら、市内の状況を見てみますと、平成22年の発生件数は、1,593件で、平成21年に比べ、143件増加し、なかでも、車上狙いやカーナビなどを狙った部品盗、また空き巣、自転車盗などが増えています。

このような事態を受け警察では、啓発活動を行うとともに、事件多発場所での警察官の見回りや取締りを強化してきました。その結果、平成23年に入ってから車上ねらいや自転車盗難も含めた犯罪件数は減少してきています。

また、現在、市内で甲賀警察署に登録されている自主防犯活動団体は21。10月には、佐山自治振興会でも青色防犯パトロール隊を設立され、地域で防犯活動に取り組みられています。活動されている団体のうち第四水口台自警団を紹介しします。

自警団同士の連携でより地域の防犯力を高める

第四水口台自警団 団長 平野 与志智さん



第四水口台自警団は、平成21年10月団内で発生した建物火災を機に、同年12月、区環境部をはじめ区民の有志が集まり、隣接する地区の桜ヶ丘区自警団を先進モデルとして活動を開始しました。

子どもたちの下校時など、伴谷東小学校区を中心に伴谷地区全体および城山中学校区を活動範囲とし、青パト車を使ってパトロールを実施しながら防犯灯の点検なども行っています。

パトロールの際は、より目立つようにベストや腕章を身につけるようにしています。また、メイン道路に青色の防犯灯を設置するなど防犯意識があることをアピールし、犯罪の起こりにくい環境を整えるために努力を続けています。

● 地域の子どもを犯罪から守るために

地域の子どもを犯罪から守るため「自分たちの地域は、自分たちで」という意識を持ち、取り組みました。今では、小学校区内は桜ヶ丘区自警団と連携してパトロールしています。不審者情報があればすぐに情報が伝わる体制をとっており、団員相互に協力・連携し、強固な防犯態勢が保てています。

犯罪が起きてからではなく、未然に防ごうことを目標に活動しているため、何も起こらなかったのは、パトロールの成果だという思いで続けています。

● 一人ひとりの意識が大切

自警団がパトロールしているだけでは、犯罪は防げません。何かあったら助けてくれるという考えは危険です。普段から近所の方とのコミュニケーションを図ることも対策の一つであり、一人ひとりの防犯に対する意識が大切です。こういった意識を高めるためにも、これからも活動を続けていきたいと思えます。

「自分に限ってという意識でなく」

甲賀警察署生活安全課 ほんだ としひろ 課長 本田 利弘 課長

被害に遭われることが多いのは、自転車盗難や車上ねらいです。犯人は常に駐車場で狙っている場合が多く、ほんの少しの時間でも犯行におよびます。最近では、女性に対する強制わいせつも多数発生しており、これから年末にかけては飲酒の機会が増えるので、グループで帰るなどの対策をしてください。また、傾向として、イヤホンをつけるなど周囲の物音に気付かない状態の方が多く被害に遭われています。

「まさか自分に限ってそんなことはない」という意識ではなく、一人ひとりが狙われないよう対策をすることで、犯罪は防ごうことができます。

また、少年補導員をはじめ、地域の自主防犯活動団体によって防犯の取り組みが行われていますが、こういった活動を外に向かって見せていることが大きな犯罪抑止力となります。特に青パト車を使っているの見回りなどは有効な手段であり、こういった活動をされている地域は、犯罪発生率が低い傾向にあります。

■ 児童の見守り活動を行い、滋賀県防犯協会会長賞を受賞

長野区自治会

長野区いきいきクラブ 副会長 田中正臣さん



長野区自治会では、平成17年4月から信楽小学校の通学路で下校時に合わせ、青パト車での児童の見守り活動を行っています。

長野区は団地もあり、信楽町内が一番居住地域が広いため、街中よりも人目につきにくいところを中心にパトロールを行います。そういった場所では特に「おかえり」「寒いな、気をつけて帰り」など、できるだけ声をかけるようにしています。

今回、県防犯協会から団体部門での表彰をいただいたのは、こういった活動を地道に続けてきた成果だと考えています。

今後ますます私たちの活動が、防犯はもちろん、子どもたちの安心に繋がることを願って、これからも活動を続けていきたいと思えます。

■ 防犯の啓発活動に活躍

水口中学校ボランティア部「MVC22」

PR担当 南崎小百合さん(2年生)

私たちは、ボランティア部として、「世のため、人のため、水中のため」をモットーに学校内の清掃のほか、地域では介助ボランティアや啓発活動などに日々地道に取り組みんでいます。

さらに地域での活動を広げようと「MVC22」として活動することになりました。

防犯の看板づくりや街頭での啓発活動などの実績から、自主防犯活動団体の一員としても認められ、10月に行われた任命式では、甲賀市あんぜん・あんしんなまちづくり市民会議から任命状と防犯活動用ベストをいただくことができました。



「MVC22」任命式

私たちが通学に利用している自転車も、市内で事故や盗難が多発しているそうです。交通ルールを守ったり、駐輪時には必ずロックしたりするなど、一人ひとりが気を付ければ、必ず事故や犯罪は減ると思えます。

私たちが活動を続けることで少しでも犯罪が無くなり、安全で安心な学校やまちになるように今後も頑張っていきます。